特集1

地域のチカラが生み出す6次産業化

広島県の「世羅高原6次産業ネットワーク」と
滋賀県の「一般財団法人 愛の田園振興公社（道の駅あいとうマーガレットステーション）」は、
農林漁業者と行政が連携し、地域ぐるみで取り組む6次産業化の先進事例として全国から多くの視察者が訪れている。
広域におよぶ6次産業化はなぜ誕生したのか？ 農林漁業者と行政はどのように連携し、それぞれの役割を担ったのか？
長年成長し続ける地域のチカラはどのように引き出されたのか？ 6次産業化を切り拓いてきた方々に話を聞いた。

世羅高原には菊桃、藤、ラベンダー、チューリップ、ひまわり、コスモス、ゆりなどの花を栽培し、
観光農業を行っている農園が多く、花シーズンは大勢の観光客で賑わう。

事例-1

農業を中心とした6次産業化の実践で、町全体を日本一大きな農村公園に

世羅高原6次産業ネットワーク（広島県世羅郡世羅町）

広域で6次産業化を推進するメリット

世羅高原では県営パイロット事業や国営農地開発事業により広大な農地が多く造成されたが、農業で経営安定ができない、近年では高齢化により担い手が不足するなどの課題を抱えていた。そんな、中山間地域の課題を共有する世羅郡3町（甲山町、世羅町、世羅西町　2004年に合併）は、甲山地域農業改良普及センター（現・尾道農林事務所）の指導を受け、1977年に広島県の「農村地域6次産業推進事業」を共同で導入することを決定。広域で6次産業化を推進するメリットを次のように考えた。

①町の垣根を取り外せば、人材・資源・施設を有効に活用できるのではないか。②3町が協力することでイベント等の規模や内容が充実し、消費者の満足も得られやすくなるのではないか。③消費者にとって町の区分は関係なく、世羅郡全体を広域農業公園として考えると、さらに魅力的になるのではないか。PRも世羅高原全体で実施するとより効果的になるのではないか。

翌年の1998年には、3町、広島県、農協で組織された「世羅高原6次産業推進協議会」を設立。世羅町への100万人の集客を目標に掲げ、ブランド商品の開発、世羅高原のイメージ強化、アンテナショップの開設、大型イベントの開催、わかりやすい看板を設置するなどのビジョンを策定した。また、6次産業化の啓発や研修会の開催、推進のための補助事業導入など、地域ぐるみの6次産業化を牽引した。そして1999年、6次産業化に意欲的な農園、産直市場、女性による加工グループを中心に「世羅高原6次産業ネットワーク」が設立された。

世羅ブランドの開発部長を務める宮本真弓さんはじめ、「Sera-Riz」を試食する関係者のみなさん。

2016年11月から発売されている、世羅高原6次産業ネットワークの新商品「Sera-Riz（せらり）」。

広島県中央部、標高350～500mに位置する世羅高原。世羅郡の旧甲山町・世羅町・世羅西町は、2004年に合併し世羅町となったが、この世羅町一帯を世羅高原と呼ぶ。

ネットワーク事務局と地元の世羅高校とタイアップして作った梨ジュース「世羅っとした梨 ランニングウォーター」は、年間10万本を超えるヒット商品。売上の一部は世羅高校陸上部へ寄附される。

世羅全体のことを考える意識を会員全員が共有し続ける

世羅高原6次産業ネットワークは、32団体の参加からスタートしたが、現在は72団体にまで増え、6次産業化に関係する売り上げは約22億円にのぼる（2015年）。会員が増えていく過程では、世羅高原全体の向上に意識が向いていない会員も少なからずいた。こういった問題解決も含め、自主的に運営していくために、ネットワークでは、イベント部会、郷土料理部会など6つの部会を作り、会員を必ずどこかの部会に所属させ、具体的に地域のことを考える機会を与えた。また、5代目の会長を務めた橋川正治さんは、「ネットワーク参加にあたっては面接をして〝世羅全体を元気にしたい〟という意識を共有するようにしていました。」と話す。

2006年には、世羅高原6次産業ネットワークの拠点施設となる夢高原市場がオープン。ネットワーク会員による対面販売や隣接するワイナリーのレストランへの食材提供も行われている。

地域ぐるみの6次産業化が成熟していく中、ネットワークは新ビジョン「日本一大きく美しく豊かな農村公園をめざして」を策定し、2009年に世羅町長に提案書を提出。長期滞在型施設が不足していること、観光情報が統一されていないことなど一年間をかけ抽出した課題を踏まえ、今後の事業展開を提案した。

ネットワークの構成も見直し、6つの部会をグリーンツーリズム、世羅ブランド開発、企画情報発信と3つに集約。新たな基盤構築を進めている。一方、提案を受けた世羅町は、全町農村公園化を目指す取組を通じて、ソフト・ハードの両面から住民の生活基盤を強固なものとする仕組を確立したいと回答し、2010年度から、就農希望の若者に対して毎月15万円を支給する制度をスタートさせている。

橋川（はしかわ） 正治（まさはる） さん（69）

世羅高原6次産業ネットワーク副会長
協同組合夢高原市場 専務理事

2015年よりグリーンツーリズム部会の部長も兼任、いち早く農家民宿「高光」をスタートさせ、後進の指導にもあたっている。2009年～2013年の5年間は、世羅高原6次産業ネットワークの5代目の会長を務め、任期中、夢高原市場の設立に関わり、「日本一大きく美しく豊かな農村公園を目指して」の提案書を世羅町長に提出した。